

# 地域と学校の 協働通信

令和6年12月16日  
武蔵野市教育委員会  
指導課教育推進室  
第23号

## 特集

- 第18回「むさしの教育フォーラム」報告
- 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢等について
- 各学校の協議会から

## 第18回「むさしの教育フォーラム」を実施しました(11月3日)

テーマ：「あなたも『開かれた学校づくり協議会』のメンバーになれる？」

～学校と地域が協力して子どもの学び・育ちを支える環境を目指して～

今回は、上記のテーマを掲げ、学校運営協議会機能を付加した「開かれた学校づくり協議会」が来年度から全校実施となることを踏まえ、モデル校である境南小学校と第一中学校の実践を踏まえた報告とパネルディスカッションを中心に実施しました。会場となった「武蔵野プレイス」には、約90名の参加者があり、予備の椅子を出して対応する盛況となりました。

前半は、教育委員会より、「学校運営協議会機能」のポイントや今後の流れなどの説明、モデル校2校の実践の様子や委員の声などをお伝えしました。

後半のパネルディスカッションでは、モデル校の委員や副校長、教育委員、大学の先生により、本市の学校・家庭・地域の協働についてモデル校としての実践やその成果と課題、今後の展開に向けた提言などをいただきました。いくつかを紹介します。



パネルディスカッションでは、モデル校の委員さんからリアルな声をうかがうことができました。



右：境南小副会長 南さん  
左：第一中副会長 三原さん

- 先生方へのアンケートからは期待されていないと感じたが、漢字検定や英語検定の運営、部活動の見守りなど重ねてきた。ボランティアの人数も50名近くになった。
- 児童、教員のアンケートをもとに地域ができることを考え、「人材リスト」をまとめている。
- 「『地域』とは、誰のことなのだろう？」という発言から →「学校や子どもたちを大切に思っている人では？」「そのような人をどう取り込んでいこうかが大切だ」「今でも、そのような方々が、『自分事』として考えてくださっていることがうれしい」

パネリストで、学校・家庭・地域の協働体制検討委員会の副会長を務めていただいた成蹊大学教授の渡邊大輔先生からは、「モデル校の皆さんが楽しそうに語っている姿が素晴らしい。学校が疲弊している現状だが、まずは今の学校を知ってもらう。その上でどうしていくかについて皆で協議し応援してもらおう『応援団』となってほしい。また、立ち上げがうまくいっていても、続いていくと惰性となりがちである。そうならないためには、『楽しさ』が大切であり、余裕のある活動やコミュニケーションを充実させてほしい。また、検討委員会の報告書にもあるが、こうした武蔵野市の実態や取り組みについて国、都、市などに知ってもらうことも大切だろう。」とまとめていただきました。



成蹊大学教授 渡邊先生

## 情報 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢 地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2024 金沢

全国コミュニティ・スクール連絡協議会、文部科学省、金沢市教育委員会の主催により、「持続可能な社会の創り手の育成～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組を通して～」を主題として、表記の大会が石川県金沢市で開催されました。午前中は、「持続可能な社会の創り手を育成するコミュニティ・スクール」をテーマとしたパネルディスカッション、午後は地元金沢市をはじめ、全国各地の学校運営協議会を設置する小・中学校、高等学校、養護学校からの実践の発表や協議が3つの分科会で行われました。

なお、フォーラム当日のアーカイブ動画配信が開始されましたので、右記のサイトからぜひご覧ください。(金沢大会の資料はこちらです➡)



開会行事の様子



フォーラム当日のアーカイブ動画配信↑

## 各学校の「開かれた学校づくり協議会」から

引き続き、各学校の協議会の様子をお伝えします。年度の後半となり、各学校では、学校評価をもとにした次年度の方針や具体的な取組についての協議が行われます。「学校と地域が協力して子どもの学び・育ちを支える」ための活発な議論が行われることが期待されています。



### 桜野小学校

第3回協議会は、給食の試食や授業観察の後に協議会を開催する充実した内容で行われました。冒頭に校長先生から「よりよい学校・地域づくりに向けて、子どもの意見表明の場を大切にしたい。」とのお話があり、代表児童も参加して意見交流を行いました。児童の自己紹介では「今がんばっていること」として「よりよい学校づくりのための運動会実行委員会」や、「やるべきことを前もって考えて委員会活動がスムーズになるように」がんばったという話に大人も感心していました。



児童を交えて意見をまとめる様子

その後「桜野小のよいところ」を意見交換して模造紙にまとめました。元気で明るい子どもたちの様子や、まち探検・地域での子どもたちの姿などが共有され、「桜野小は地域に開かれている印象」といった意見もありました。



### 第一小学校

校長先生から、同校の現状や課題が報告された後、不登校への対応、学校関係者評価、今後の学校行事の方向性について、それぞれ担当の先生から報告がありました。それを受けた委員からの意見や質問にも出席している先生方が積極的に関わり、同校における不登校等の児童の状況や学校としての具体的対応、児童の変容などについて掘り下げることができました。

特に、保護者や地域の方も関心が高い学校行事の在り方について、同校では学校行事に関する児童の意識調査の分析も踏まえて説明をしていました。このように学校が進めていきたい事柄について、そのねらいや理由などが明確になることで、「開かれた学校づくり協議会」の議論の意味も高まります。

委員の皆さんによる活発な協議のためにも、学校からの適切な情報提供が欠かせません。



### 第四小学校

今回は、今年度の学校評価に関わるアンケートについて学校から提案を受けての協議を行いました。はじめに、校長先生から、アンケートの概要についての説明がありました。同校では、学校教育目標に沿った具体的な4つの方策をもとにしてアンケート項目が設定されており、校長先生の学校経営の基本方針との関連が図られていると感じました。

協議では、「児童の減少傾向を踏まえて、幼保連携やその保護者への情報提供が必要ではないか。」や「読書の推進のため、作家が多く住む本市の特色を生かしてゲストティーチャーとして来ていただくのもよいのではないか。」などの意見や、学校評価は各学校独自の項目を生かしつつ、市として共通の項目も必要ではないか、などの意見が出されました。



### 第二小学校

第二小学校では、第3回協議会で、「お試し『熟議』」を実施しました。同校では、第1回には来年度からの学校運営協議会の趣旨や内容についての説明があり、第3回に「熟議」の研修を企画しました。

今回の「熟議」は、「これからの二小」をテーマに学校・地域の良さや課題を議論しました。校長先生・副校長先生も入って3つのグループを作り、

- ① 個人で付箋一枚に一つのことを大きな字で書く
- ② グループ内で、共有する（付箋を模造紙に貼りながら「同じだ」「どうして？」など話し、分類したり、関連付けたりする）

③ 全体で各グループの話題を共有する（模造紙を示しながら、簡単にまとめる）という手順で行いました。はじめは少し緊張した表情もありましたが、時間の経過とともに話が弾み、児童・保護者・地域それぞれの良さや課題が共有されました。校長先生からは「思っていたより楽しかったし、教職員だけでは気付かないポイントも見えてきた。来年度に生かしていきたい。「熟議」を先生たちもやってみるとよいと思った。」などの感想をいただきました。



グループでの「熟議」の発表の様子

※※※※※「本校でも『お試し熟議』を」というご要望がありましたら、お声がけください！！※※※※※